

1.長期成長ビジョン

100年に一度の大変革期をビジネスチャンスと捉え、積極投資により事業の構造改革を行い、ステークホルダーに貢献し、100年企業を目指し、更なる発展を企図

長期成長ビジョン（目指す姿・ビジネスモデル）

- 自動車業界及び航空宇宙業界は共に大変革期を迎えており、
- 光製作所は 切削をコア技術とした加工部品を他社にはない設備、技術力を持ち、高品質、高精度、低コストでこの業界に納めており顧客から厚い信頼を得ている。
- 今年で創業77年を迎えるが、更なる発展を図ることにより100年企業を目指すため、この変革期をビジネスチャンスと捉え、積極投資により、合理化、拡販、新規ビジネスの獲得を目指す
- 持続的成長を実現することで、ステークホルダーである-顧客、従業員、仕入先、地域社会に貢献する。

売上成長目標

- 2030年までの会社全体の売上高成長率+82.6%
- 2030年までの会社全体の売上高増加額77.8億円

外発的動機

- 中部地区は自動車業界、航空宇宙業界の重要なモノづくり拠点となっているが、自動車業界ではカーボンニュートラルの加速により、CASE、航空宇宙産業では飛行機、ロケットの国産化、更にはeVTOLや産業用ロボット等、軽量かつ高剛性の部品が求められ、光製作所が長年培ってきた加工技術、ノウハウが必要とされている。
- 一方 賃上げ、働き方改善、SDGs、地域社会との共存、共栄が求められている。これらの期待に応えるため自動車産業向け生産をしている民生品事業部の集約を図り岐阜市柳津に魅せる新工場を立ち上げる。

内発的動機

- 自動車部品の急激な生産の伸びに追従するため、持続的な設備増設投資を続けており、工場面積の不足による部材保管場所の不足、それに伴う部品の移動ロス発生や、作業改善、環境改善の遅れといった非効率な運用を強いる状況となっている。
- また、人員増加に伴う休憩スペースの不足等働く人の負担が増加している状況。このため工場新設にあたり、安心・安全な職場環境を構築し、休憩スペースの確保や、従業員の希望を取り入れた働きやすい工場を作る。

- ＜コンセプト＞
- ・働く人に優しい
 - ・地域社会に優しい
 - ・地球環境に優しい

2.補助事業の概要

民生品事業部(補助事業)において、現在6拠点に分散している工場、倉庫、研究施設を1ヶ所に集約することで生産性向上を図るとともに、新領域事業用のスペースを確保し売り上げ拡大を実現

補助事業の背景・目的

- 自動車業界エンジン関係が減少する中、CASEへの対応が必須である。現状は既存製品の対応で余剰面積がない、このため新工場設立、新規設備投資を行い売り上げ拡大を図る

事業費
(補助額)48億円
(12億円)

設備投資の内容

区分	内容	狙い		
		競争力強化/効率化	拡販	CN/SDGs
工場建設	新工場の土地造成・建物建設	✓	✓	✓
	① CASE向け生産設備新設		✓	
	② eVTOL・ロボット用加工設備新設		✓	
生産設備設置	③ 新領域におけるSub-Assy組立設備新設	✓	✓	
	④ 付加価値向上、競争力向上用ダイカストマシン増設	✓	✓	
	⑤ 切削切粉の圧縮、ブリケット化、搬送設備新設	✓		✓
付帯設備設置	⑥ 省エネタイプのエアコンシステム、コジェネ、コンプレッサー新設			✓



柳津新工場構想図

目標値

項目	2027年度 (基準年度)	2030年度 (基準年度 + 3年後)
労働生産性 (単位: 万円/人)	1,597万円	2,409万円 (年平均上昇率 + 14.7%)
従業員1人あたり給与支給総額 (単位: 万円/人)	694万円	811万円 (年平均上昇率 + 5.3%)
役員1人あたり給与支給総額 (単位: 万円/人)	-	- (年平均上昇率 + 5.2%)
補助事業に係る従業員数 (単位: 人)	126人	158人